

## 国際理解教育/開発教育 学習指導(活動)案

## 【実践者】

授業者氏名	夏井 ひとみ	学校名	宮崎県諸塚村立諸塚中学校
教科(科目)・領域	英語科	対象学年(人数)	3年A組(10名)
実践年月日もしくは期間(時数)	令和7年11月28日(金)(8時間)		

## 【実践概要】


1. 単元名(活動名): Reading 2 Malala's Voice for the Future 『Sunshine3』開隆堂					
2. 実践する教科・領域  【合科的単元】 英語科授業 6 時間 道徳1時間 学級活動1時間	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化共生	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
4. 単元の目標(評価規準を意識して設定)					
○ マララさんのスピーチ(2013年7月12日、ニューヨーク国連本部に招かれ、教育の重要性や平和の大切さを世界中に向けて訴えたスピーチ)に込められた力強いメッセージを理解する。 【英語科】					
○ 「自分自身と国際社会との繋がり・未来を共に創るチカラは何か・自分にできること」を考え、グループで意見交換しながら解決策を発表する。 【英語科】					
○ 自他への敬愛の大切さを学び、未来を共に創ろうとするチカラは育てる。 【道徳】					
○ 3・4時で見えてきた世界や日本の課題の解決策を見だし、SDGs目標4とSDGs目標5を達成し、男女が協働する社会づくり(未来を創るチカラ)を考える。 【学級活動】					
5. 単元の評価規準 【英語科】	①知識・技能	【知識】 ・ 客観的な視点と主観的な意見が組み込まれた文章の構成を理解している。 【技能】 ・ 客観的な視点と主観的な意見が組み込まれた文章の構成の理解をもとに、マララさんが経験してきたことや彼女の考えについて、概要や要点を読み取る技能を身に付けている。			
	②思考・判断・表現	・ マララさんの思いについて理解するために、彼女の物語を読んで、概要や要点を捉えている。 ・ マララさんについて理解を深めるために、簡単な語句や文を用いて、マララさんへのメッセージを書いている。			
	③主体的に学習に取り組む態度	・ マララさんの思いについて理解するために、彼女の物語を読んで、概要や要点を捉えようとしている。 ・ マララさんについて理解を深めるために、簡単な語句や文を用いて、マララさんへメッセージを書こうとしている。 ・ 世界や日本の「子どもたちの教育の現状や男女格差の実態」を調べ、国際社会の平和や発展に寄与し、未来を共に創ろうとする態度が見られる。			
【道徳】	① 主として人との関わりに関すること	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方が			

	B-11 相互理解、寛容	あることを理解し、寛容な心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていく。
	② 主として集団や社会との関わりに関すること C-11 公正、公平、社会正義	正義と公正を重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める。
【学級活動】	① 知識・技能 (何を知っているか、何ができるか)	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
	② 思考・判断・表現 (知っていること、できることをどう使うか)	集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする
	③ 主体的に学習に取り組む態度、人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)	自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。
6. 単元設定の理由・単元の意義		
【単元設定の理由あるいは単元の意義】		
<p>中学校第3学年の英語教科書『Sunshine 開隆堂』では、女性や子どもの人権のための活動を続け、14年に史上最年少(当時 17 歳)でノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんについて書かれた”Reading Malala’s Voice for the Future”がある。そこで、SDGs 目標4「すべての人々に包括かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」、目標5「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児にエンパワーメントを図る」を実現するために「女性教育とジェンダー」を考える英語授業と道徳・学級活動の授業を教科横断的に授業計画した。複数の領域にまたがり、知識や理解を深め、世界や日本の「子どもたちの教育現状や男女格差の実態」を学び、国際社会の平和や発展に寄与し、未来を共に創ろうとするチカラを見いだしていくことは大変意義深く、効果的なカリキュラム・マネジメントと考える。</p>		
【生徒観】		
<p>本校(諸塚村立諸塚中学校全校生徒27名)は、昨年度、JICA 宮崎の西村真由美様をお招きし、男女共同参画社会づくりをねらいとした人権教育を実施した。人権教育では、生徒たちは、誰もが自分らしく生きていき、一人ひとりがかけがえのない大切な存在であることに気付くことができた。</p> <p>そこで、今年度は、女性が教育を受ける権利の世界の実態、日本のジェンダー状況、社会的性差(ジェンダー)を学び、「女性(男性)の社会の中での役割」や「女性は(男性は)こうあるべきだ」といった考え方は、人間がつくるものであることに気付かせたい。そして、ジェンダーは時代や文化によって変化するものであることに気付かせ、ジェンダーを考えるきっかけにしたい。</p>		
【教材観】		
<p>英語の教科書から、マララさんの功績やマララさんの思いを理解させたい。JICA 宮崎に講話依頼し、「女性教育とジェンダー」を考える道徳の授業を計画し、グローバルな視点や地球規模の課題意識を育み、諸塚村から、より良い世界を共に創る生徒の育成を目指した授業作りに励みたい。</p>		
【指導観】		
<p>英語の授業では、マララさんのスピーチ(2013年7月12日、ニューヨーク国連本部に招かれ、教育の重要性や平和の大切さを世界中に向けて訴えたスピーチ)に込められた力強いメッセージを理解させたい。そして、「自分自身と国際社会との繋がり・未来を共に創るチカラは何か・自分にできること」を考え、グループで意見交換しながら解決策を発表させたい。道徳では、自他への敬愛の大切さを学び、未来を共に創ろうとするチカラは育てたい。専門性の高い学びや気づきを必要と考え、JICA 宮崎に講話依頼し、人権や平和の観点からの新たな気づきを見つけさせたい。学級活動では、見えてきた世界や日本の課題の解決策を見だし、SDGs目標4とSDGs目標5を達成し、男女が協働する社会づくり(未来を創るチカラ)を考えさせたい。級友との多面的・多角的な意見交換の時間設定を多くし、外部資源(JICA 宮崎や宮崎県男女共同参画センター)の講話を計画し、対話的で深い学びにしたい。</p>		

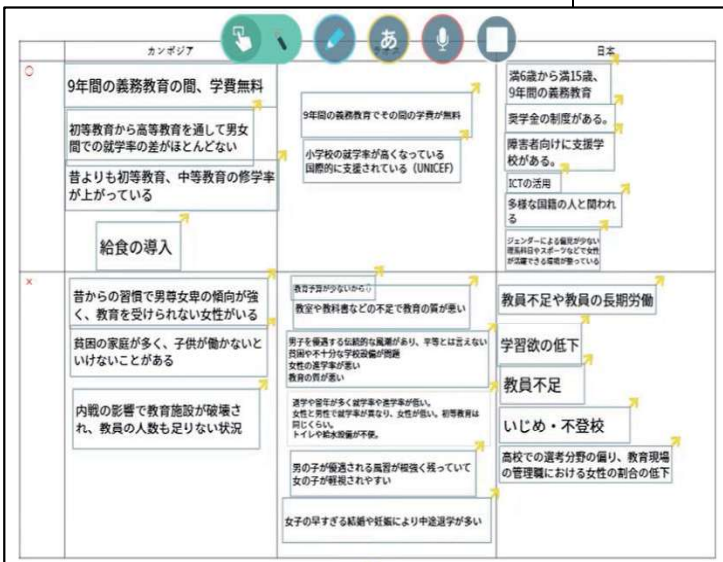
7. 単元計画(全8時間)			
時間	ねらい	学習活動	資料など
1	マララさんの思いを理解する。	【英語科授業:教科書本文理解 1 <sup>st</sup> and 2 <sup>nd</sup> Stage】 ・ マララさんの物語を理解する。	『Sunshine 3』 開隆堂
2			

3	2時間 英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界や日本の「子どもたちの教育の現状」を理解する。</li> <li>ジェンダーの平等を考える。</li> </ul>	<b>【英語科授業:世界と日本の現状理解】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界や日本の「子どもたちの教育の現状や男女格差の実態」を調べ、理解する。</li> <li>グループで意見交換しながら、世界や日本の課題をみつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALT(ザンビア出身)との協働授業</li> <li>『「生きる力を育む」国際理解教育実践資料集』JICA 地球ひろば</li> <li>『共につくる私たちの未来』JICA 地球ひろば</li> </ul>
4				
5	1時間 道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>自他への敬愛の大切さを学ぶ。</li> </ul>	<b>【道徳:講話】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自他への敬愛の大切さを学び、未来を共に創ろうとするチカラは育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮崎県国際交流協会多文化共生アドバイザーの派遣依頼</li> </ul>
6	1時間 学級活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女共同参画社会に向けての取り組みを理解する。</li> </ul>	<b>【学級活動】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>3・4時で見えてきた世界や日本の課題の解決策を考える。</li> <li>男女が協働する社会づくり(未来を創るチカラ)を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『中学生生活と進路3』宮崎県版</li> </ul>
7	1時間 英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>マララさんについての理解を深める。</li> </ul>	<b>【英語科授業:教科書本文理解 3rd Stage】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>マララさんへメッセージを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALT(ザンビア出身)との協働授業</li> </ul>
8 (本時)	1時間 英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際社会の平和や発展に寄与し、未来を共に創ろうとする態度を育てる。</li> </ul>	<b>【英語科授業:まとめ・発表】</b> 国際社会の平和や発展のために、「自分自身と国際社会との繋がり・未来を共に創るチカラは何か・自分にできること」を考え、グループで意見交換しながら解決策を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Sunshine 3』開隆堂</li> <li>ALT(ザンビア出身)との協働授業</li> <li>宮崎県国際交流協会 Zoom 参加</li> <li>JICA 宮崎 Zoom 参加</li> <li>宮崎県男女共同参画センターZoom 参加</li> </ul>


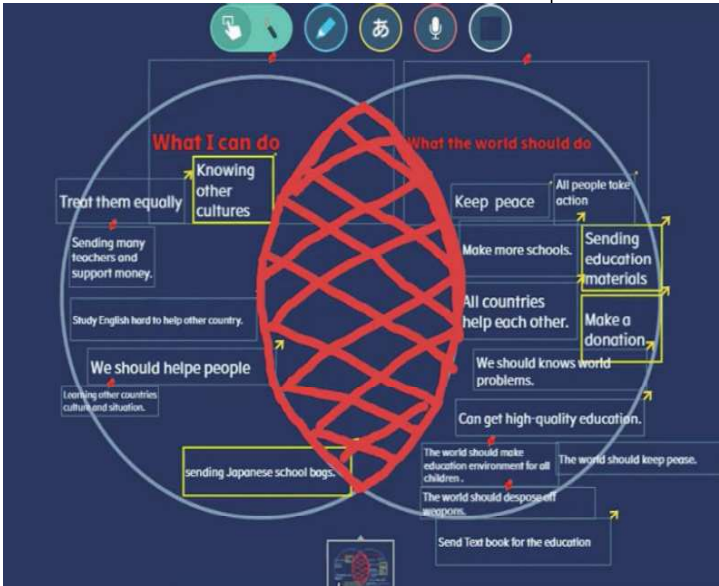
8. 本時の展開(概略) 本時のねらい: ○ 「自分自身と国際社会との繋がり・未来を共に創るチカラは何か・自分にできること」を考え、グループで意見交換しながら解決策を発表することができる。(思考力、判断力、表現力等) ○ 国際社会の平和や発展に寄与し、未来を共に創ろうとする態度を身に付けることができる。(学びに向かう力)			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入(5分)	1 前時の確認をする。 T1:What did you write to Malala? T2:I wrote about my dreams. I want to be a teacher to help children.  2 Small Talk をする。 マララさんへのメッセージを級友と共有する。 T1:Let's share your message to Malala. S1:I wrote about my hope. I hope girls in your country can go to school to study. S2:I wrote about myself. I am a lucky student because some students can't go to school.	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回までの学習内容の確認をしっかりと押さえるために、最初に、ALTの参考回答表現を聞かせ、生徒たちの表現の幅を広げさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>I read Malala's voice for the future. I was moved by the word when the whole world is silent, then even one voice becomes powerful," Because I didn't think that one voice could become powerful for the world. I studied education in other countries It isn't good for girls. Most of girls have to work hard for the family and can't go to school. I want the world to have equality.</b></p> </div> <p>【生徒Aの書いたマララさんへのメッセージ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット共有ノート</li> </ul>

<p>展開 (35分)</p>	<p>3 今日の目標を確認する。 T1:Do you know the meaning of SDGs4 and SDGs5? T2:Yes. SDGs4 is about giving education for everyone and SDGs5 is about giving chance to everyone and giving power to all women and girls. T1:What is the goal? What should we do? T1:Today's goal is 「未来を共に創ろうとするチカラはどんなチカラが必要なのだろう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身と国際社会の繋がりや自分達ができることがイメージしやすいようにSDGsのカードを黒板に貼り、意味を確認させる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs4とSDGs5のカード</li> <li>SDGs目標4「すべての人々に包括的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」</li> <li>SDGs目標5「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児にエンパワーメントを図る」</li> </ul>
---------------------	---	--	---

本時の目標：未来を共に創ろうとするチカラはどんなチカラが必要なのだろう。

<p>4 世界や日本の課題を意見交換する。 T1:We studied about Education in Cambodia, Laos and Japan. Tell me about Cambodia.  T1:Can children go to school? S1:Most girls can't go to school. T2:What do girls who can't go to school usually do in Cambodia? S2:They work every day. T1:Can they earn enough money? S1:They usually work but they can't earn enough money. T1:What is the problem for children and women? T2:If they don't go to school, they can't read and write. S1:They can't work and earn money. T1:How about Laos? T2:How about Japan? T1&gt;Please check it. Which country is the best? S1:Iceland is. T1:Let's watch News about Education and Gender in Iceland. T2:Iceland gives equal chances to women and men. So, everything is equal. Men and women are equal in Iceland. T1:Can children go to school in Iceland? S2:Yes, they can. More women go to</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1時から7時までに分かった世界や日本の課題や考えたことを多くの級友と意見交換をさせ、新たな気づきを持たせる。</li> <li>更に気づきを深めさせるために、1時から7時までに分かったことや考えを掲示し、視覚的に理解を深めさせる。</li> </ul>	 <p>カンボジア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>9年間の義務教育の間、学費無料</li> <li>初等教育から高等教育を通して男女間での就学率の差がほとんどない</li> <li>昔よりも初等教育、中等教育の就学率が上がっている</li> <li>給食の導入</li> </ul> <p>ラオス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>男子を養育する伝統的な風習があり、平等とは言いえない</li> <li>貧困の家庭が多く、子供が働かないといけないことがある</li> <li>内戦の影響で教育施設が破壊され、教員の人数も足りない状況</li> </ul> <p>日本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>満6歳から満15歳、9年間の義務教育</li> <li>奨学金の制度がある</li> <li>障害者向けに支援学校がある</li> <li>ICTの活用</li> <li>多様な国籍の人と関われる</li> <li>ジェンダーによる偏見が少ない</li> <li>男女の就学率が高い</li> <li>教員不足や教員の長期労働</li> <li>学習欲の低下</li> <li>教員不足</li> <li>いじめ・不登校</li> <li>高校での進路分野の偏り、教育現場の管理職における女性の割合の低下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット共有ノート</li> <li>JICA地球ひろば資料</li> </ul>
--	---	--	---

【資料1 カンボジア・ラオス・日本の教育の現状の良ささと課題のまとめ】

	<p>the University than men there. T1:Are women independent? S2:Yes, they are. They are independent.</p> <p>5 解決策を考える。 T1:What do you need to do to help children who can't go to school? T2:I study hard and I want to be a teacher. T1:Please tell me what the world should do. T2:Make more school. Make many events for charity. T1:I will give 10 mins to think about it and let's share your opinions. T1:Which part is the most important? S1:center. T1:center is the most important part. This is the power. This is the power to make a better world. T2:What did Malala say in her speech? S1:One Child, one teacher, one book and one pen can change the world. Education first. S2:Let us make today's dreams tomorrow's reality. T1:What is the power to make a better world?</p>	<p>例) 男女格差の実態</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>世界経済フォーラムの男女平等に関する調査で7年連続1位のアイスランドの現状を紹介し、男女格差の大きな国と何が違うのかに気づかせる。</li> <li>自分でできること、世界がすべきことの項目に分け、シンキングツール(PMI/KWL)を使い、まとめさせる。</li> </ul>  <p>【資料2 個人やグループで自分や世界(社会)は何かできるかを考えたロイロノート共有ノート】</p>	
<p>まとめ (10分)</p>	<p>6 「未来を共に創るチカラは何か・自分にできること」を表現する。 T1:We are going to listen to the opinions of JICA 宮崎 and 男女共同参画センター to solve the problem.  T1:What did you learn today? What will you do for the future to make a better world? T2:I learned education is important and I will help and send money to</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マララさんの思いや世界や日本の現状を正しく理解させるために、外部講師とのやりとりは日本語とさせる。(JICA 宮崎、宮崎県国際交流協会、宮崎県男女共同参画センター)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Zoom</li> <li>タブレット</li> </ul>

<p>build schools. S1:I learned we should help everyone to go to school and I will be a teacher to help them. S2:I learned about education in other countries and we can give them books. T2:It is nice that you want to help other students who can't go to school. That's a very good idea to think about others.</p> <p>T1:I want you to write your opinion.</p> <p>T1 How was the class? T2 It was very interesting because we found very goods idea to be a better world. We could find the power to change the world.</p>	<div style="text-align: center;"> <p>宮崎県国際協力推進員</p>  </div> <div style="text-align: center;">  <p>宮崎県国際交流協会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>宮崎県男女共同参画センター</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな気づきや学びをさせるために、多くの級友の考えや外部の専門的な説明を聞かせ、自分自身の考えを深めさせる。</li> <li>「共に創るチカラ」を級友と対話を通して、自分の考えを深めさせるために考えを共有できるよう提示する。</li> </ul>	
--	---	--

<p>9. 評価規準に基づく本時の評価(評価方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「自分自身と国際社会との繋がり・未来を共に創るチカラは何か・自分にできること」を考えることができた。(記述)</li> <li>○ グループで意見交換しながら解決策を発表することができた。(観察・記述)</li> <li>○ 国際社会の平和や発展に寄与し、未来を共に創ろうとする態度を身に付けることができる。(観察・記述)</li> </ul> <p>10. 学習方法および外部との連携</p> <p>令和7年11月に上記7のような単元計画を立案した。カリキュラム・マネジメントとして、①村立小規模校であることから、対話的な取組時間を多く取り入れることができ、多くの考えを多角的・多面的に知ることができること、②外部資源(外部講師)を生かし、専門的な知識を持たせ、村から世界へと飛ばたく人材育成が必要なこと(中学校卒業後は親元を離れて、進学する生徒が多い)、③諸塚中学校の教育目標である「高い志と向学心にあふれ ふるさとを愛し、自分に誇りと自信をもった生徒を育成する」から「自分自身に誇りと自信を持たせ、共に創るチカラ」を見いだす教育効果を考えること、の3点から、カリキュラム・マネジメントした。</p> <p>昨年度は、JICA 宮崎や宮崎県国際交流協会から「男女共同参画社会づくり」や「多文化共生社会の在り方」を学んでいる。昨年度の学びから更に「未来を共に創るチカラとは何か。自分たちになにができるのか。何がしたいのか。」を考え、深めていく時間になりたい。そのために、今年度も、JICA 宮崎や宮崎県国際交流協会と連携した授業計画を立てた。</p> <p>11. 学校内外で国際理解・授業実践を広める取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①校内での研究授業実施</li> <li>②校内掲示板での国際理解教育コーナー設置</li> </ul>
---

## 12. 苦労した点

○「未来を共に創るチカラとは何か」を考えさせ、深めていく授業時数が少なかった。より効果的な授業展開にするために、英語授業と道徳の横断的な取り組みにしたが、他教科と関連し、更に授業時数を増やすことが難しかった。

○外部講師との十分な打合せやフィードバックができなかった。事前準備と反省の時間捻出が難しかった。

○英語授業であったため、自分の考えを英語で表現しないとイケなかった。その為、生徒達に伝えたい表現の幅を狭めてしまったのではないかと課題がある。しかし、英語表現で自分の考えを一生懸命伝えようとしていた。

## 13. 改善点

○「未来を共に創るチカラ」としての実践を具体的に考えさせる必要があった。「何を、どのように、どこで、どうするのか」を具体的に考えていく授業展開が「創るチカラ」となったのではないかな。

○”What I can do”と”What should the world do”の重なる部分を深める必要があった。

○PowerなのかActionなのかを明確にしなければならなかった。

○Powerの定義を持つべきであった。Power＝力のイメージが強かったのではないかな。自分を引き出すものの意味合いにすると良かった。

○外部講師のコメントは、導入時でも良かった。導入時に、ゴールイメージを持たせる外部講師の言葉にすると効果的な活用だった。

## 14. 成果が出た点

○単元計画からゴールイメージを明記することで、毎時間の学びをゴールに向かって深めていくことができた。

○日本や外国の教育の現状を日本語でまとめたことで、各国の良さや課題を把握することができ、次時への効果的なまとめができた。(資料1)

○個人やグループで「自分は何ができるか」や「世界(社会)ができること」を自分事として考えることができた。(資料2)

○生徒の感想から「教育は重要であり、世界は平等であってほしい。」、「日本の教育は他の国よりも良いということに気付いた。もっと他の国の事についても知りたい。」、「教育は重要であり、女性を尊敬したい。」など、世界のことや世界の教育の現状を知ることができたことが分かる。(資料3)

○「男女平等」、「自他への敬愛」の大切さを感じ取っていることが分かる。(資料4)

## 15. 学びの軌跡(生徒の授業まとめコメント)

以下の英文は、本時の生徒たちの学びのポートフォリオである。

- ・ (1) マララさんについての理解を深め、マララさんへメッセージを書いた。

I read Malala's voice for the future.  
I was moved by the word when the whole world is silent, then even one voice becomes powerful,"  
Because I didn't think that one voice could become powerful for the world.  
I studied education in other countries  
It isn't good for girls.  
Most of girls have to work hard for the family and can't go to school.  
I want the world to have equality.

【資料3 生徒 A のマララさんへのメッセージ】

I read Malara`s Voice for the fiuture.  
I was moved by the word Let us make today's dreams tomorrow's reality.  
Because this word gives us hope.  
I studid education in other countries.  
It made me thinkJapanese educationnal situation is better than most countries.  
I want all children in the world to get a good education.

【資料3 生徒 B のマララさんへのメッセージ】

I read “Malala’s voice for the future”.  
I was moved by the word “ One child, one teacher, one book, and one pen can change the world”.  
Because when I hear the this word, I was surprised and my heart was moved.  
I noticed that going to school makes me happy.  
I studied education other contries.  
It isn’t good for girls.  
Because boys can have higher education more than girls.  
I want all children to have equal education in the world.

【資料3 生徒 C のマララさんへのメッセージ】

(2)「自分自身と国際社会との繋がり・未来を共に創るチカラは何か・自分にできること」を考え、グループで意見交換しながら解決策や本時の気づきを書いた。

I learned about education in the world.  
I think Japanese education is better than in other countries.  
I want to learn about education in other countries.

【資料4 生徒 A の本時の学び・感想】

I learned education is very important.  
Because some children can not go to school in the world.  
I want the world to be equality.

【資料4 生徒 B の本時の学び・感想】

I learned that going to school makes us happy.  
Because going to school is important.  
I hope to spread this around the world.

【資料4 生徒 C の本時の学び・感想】

#### 16. 授業者による自由記述

授業を重ねるごとに、SDGs 目標4「すべての人々に包括的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」、目標5「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児にエンパワーメントを図る」を実現するために、何ができるのかを真剣に考える「学びに向かう力」の向上を見ることが出来ました。

特に、宮崎県男女共同参画センターからお越し頂いた講師の山田成美様の講話では、「女性教育とジェンダー」や「日本と世界の子どもたちの教育現状や男女格差の実態」を学び、国際社会の平和や発展に寄与し、未来を共に創ろうとするチカラとは、どんなチカラなのかをグループで話し合うことができました。生徒たちは、自分自身に無意識の固定観念があることに、「気づくこと」の大切さに気付いたようでした。この授業内容を動画作製し、生徒達と動画視聴し、学びを再確認することができました。学級通信にも QR コードで授業内容を動画視聴できるようにし、家庭においても「未来を共に創るチカラ」を考えてもらう工夫もしました。

更に最終時の英語授業では、外部講師を大いに活用し、「自分に何ができるか」を考えることができました。ザンビア出身の ALT ビリー先生との協働授業、JICA 宮崎から梅村様、宮崎県男女共同参画センターから山田様から助言を頂いた生徒たちは、「この学びを今後どう行動に移すのか」を更なる課題を見だし、自分や社会の未来を真剣に考える良い機会になったと考えます。

計8時間の“Malala’s Voice for the Future”の Reading の教材単元から、「世界を知ること」、「教育の現状」、「男

女平等」、「自他への敬愛」を感じることができました。2月には、アフリカでの人道支援活動紹介を予定しています。今後も、グローバルな視点や地球規模の課題意識を育み、諸塚村から、より良い世界を共に創る生徒の育成を目指した授業作りに励みたいです。「授業づくりの励み」が私自身の「未来を共に創るチカラ」としたいです。

#### 【参考資料】

- JICA 地球ひろば (2023) 『「生きる力を育む」国際理解教育実践資料集』
- JICA 地球ひろば (2025) 『共につくる私たちの未来』
- 宮崎県中学校教育研究会進路指導・キャリア教育部会編 (2025) 『中学生生活と進路3—キャリア教育・学級活動用テキスト—』 宮崎県
- 藤原孝章 (2021) 『ひょうたん島問題』 明石書店
- 日本国際理解教育学会編 (2021) 『国際理解教育ハンドブック—グローバル・シティズンシップを育む—』 明石書店
- 大橋正明 高柳彰夫 (2020) 『SDGsを学ぶ 国際開発・国際理解入門』 法律文化社
- 藤原孝章 奈須正裕 田中浩彦 (2020) 『SDGsカリキュラムの創造—ESDから広がる持続可能な未来—』 学文社
- 大津和子 (1992) 『授業づくりハンドブック③社会科—一本のバナナから—』 国土社
- ブレイディみかこ (2021) 『他者の靴を履く—アナーキック・エンパシーのすすめ—』 文春文庫
- 末永幸歩 (2023) 『13歳からのアート思考』 ダイヤモンド社